

市村産業株式会社
代表取締役社長
市村 智 様



今回のお客さまインタビューは、リサイクル事業において当社の業務にご協力をいただいている市村産業株式会社に、駅などから発生する廃棄物の収集運搬とリサイクル事業の現状等についてお話を伺いました。

市村産業株式会社では、JR東日本の駅やグループ会社の商業施設などから出る廃棄物を収集していただき、株東日本環境アクセスで管理・運営しているリサイクル施設等に運搬する業務を担っていただいています。市村産業株式様の事業概要について、お聞かせください。

当社では主に一般廃棄物、産業廃棄物の収集運搬業務を行っています。JR東日本様の廃棄物においては、ビン・缶・ペットボトル、一般ゴミ、新聞・雑誌、産業廃棄物を収集運搬しており、その中でビン・缶については、東京都内のものでJR東日本東京資源循環センターへ、また東京都以外から収集したものを大宮リサイクルセンターへ搬入しています。

JR東日本様からは、リサイクル率の高い処理方法を探り入れてほしいとご要望をいただいております。お客さまの

声にお応えできるよう、当社では産業廃棄物処理事業者の選定に関するご提案も行っていきます。現在搬入している焼却施設では、廃棄物を焼却して得た熱エネルギーを回収し、再利用するサーマルリサイクルを導入しています。

最近におけるリサイクル事業の状況はどのようなものでしょうか。また、再資源化に向けたゴミの分別やリサイクル技術の向上について、これからどのようなことが求められていくのでしょうか。

この10年間で環境に対する意識は社会全体で高まり、小中学生が学校で環境やゴミの分別について学ぶなど、今後もさらに環境意識が高まっていくものと思われまます。当社がある足立区では、電気・ガス・水道・灯油の使用量を月ごとに報告することで、各家庭のCO₂排出量を計算しエコライフを応援

する「省エネノート（あだち区民環境家計簿）」など、区民にも広く環境意識を持ってもらえるよう積極的な活動を展開しています。また、新聞・雑誌・ダンボールを回収し、外国に売ってしまふ不正な業者の事例が多くなっていることから、町会や子ども会、敬老会で自主的に回収することで、リサイクル率の向上に加え、コミュニティづくりにもつなげようとしています。

お客さまにご満足いただくための取り組みや工夫などについて、お聞かせいただけますでしょうか。

当社では、車両を使用して廃棄物を運搬していますので、安全には十分注意しています。また、ゴミを入れた袋にはJR東日本様の社名が記されていますので、運び忘れや運搬中の落下等がないよう十分気をつけています。住宅地を走行する際は、走行中の音やにおいにより、周辺の方々にご迷惑をおかけすることのないよう配慮しています。このため、収集運搬業務の後には必ず洗車をするなど、車両をいつも清潔な状態にしています。

また、廃棄物を扱う事業においては、最新の法令の内容など、専門的な知識が求められることから、社内での業務知識の深度化に努めています。運輸局・支局による巡回指導などを通じて得た業務知識は、月に1度実施している従業員教育、安全教育の際に社内でも幅広く共有しています。さらに、警察から提供された実際の事故に関する情報を

事例にして、安全への取り組みについても指導しているほか、当社は環境省が策定したガイドラインである「エコアクション21」に基づいた取り組みを行う事業者として認証・登録されており、環境意識の向上と収集運搬車の省エネ運転についても、社内で周知徹底しています。

循環型・環境配慮型社会の実現に向け、業界全体に何が求められているのでしょうか。

環境に対する意識が社会全体として高まったことは、環境事業に携わる私たちにとって大変喜ばしいことです。より良い方向につながるよう、できることから取り組んでいきたいと思っています。循環型・環境配慮型社会の実現については、消費者の商品の選択が大きな役割を担っています。商品を提供する企業が、リサイクルしやすい素材を使用した製品づくりや簡易梱包に努めることがスタートとなります。そして、消費者がそうした製品を積極的に選択するようになってほしいと思います。社会全体が同じ方向をめざし、環境を意識して取り組むことで、さらなる資源の循環が促進されていくものと思っています。

また、その時代にあったリサイクル方法でなければ、良い発想であっても、その取り組みを広げることは難しくなります。より良いリサイクル方法を探究するとともに、受け入れやすさにも配慮することが必要だと思えます。